

## 社外取締役からのメッセージ



地域から信頼される銀行で  
あり続けるために

取締役 小林 長久

日本トランスシティ株式会社 取締役特別顧問

### Q 百五銀行のガバナンスの特長と社外取締役の役割についてお聞かせください。

当行では、全取締役10名のうち、1/3を超える4名の社外取締役を選任しており、1名は女性です。当行の社外取締役は、さまざまな業態の民間企業の経営に携わり、取締役会において議論を重ねてきた経験豊富で多様なメンバーが揃っています。

取締役会では執行側の役員から議案ごとに十分な説明が行われ、社外取締役からの質問や意見に対しても、執行側から丁寧な回答がなされています。その結果、毎回活発で多角的な議論が展開され、執行と監督のそれぞれの機能がバランスよく発揮されているところが、当行のガバナンスの特長であると考えています。

私は、民間企業の経営に長年携わってきました。この経営者としての経験を活かし、取締役会において、経済情勢を中心に積極的に提言を行うことにより、引き続き、経営の重要事項の決定や業務執行に対する監督など適切な役割を果たしていきたいと思っています。

### Q 百五銀行のガバナンス向上のために取り組んでいることを教えてください。

2013年6月、私は当行において初めてとなる、社外取締役に選任されました。その後当行は、徐々に社外取締役を増員するとともに、2018年6月には、取締役会の活性化、意思決定の迅速化、業務執行機能の充実をねらいとして、執行役員制度を導入しました。そして、2020年6月には全取締役の40%を社外取締役が占めることになりました。また、監査役についても5名のうち3名と60%が社外監査役となっています。

2017年2月に設置されたコーポレートガバナンス会議において、私は議長を務めています。コーポレートガバナンス会議では取締役および監査役候補者の選任に関する事項、取締役の報酬に関する事項などを審議し、取締役会へ助言しており、これにより、取締役会の意思決定の透明性および客観性の向上につながっています。

### Q 百五銀行の強みと弱み(課題)について、どのようにお考えでしょうか？

当行は1878年、全国で105番目の国立銀行として創立され、以来140年以上にわたって、地域の発展とともに成長してきました。当行の何よりの強みは、この長い歴史のなかで地域の皆さまと真摯に向き合い、築き上げてきた「信用」ではないでしょうか。伝統的に行員も地に足のついた、しっかりした考えを持った人が多いと感じています。また、主たる営業エリアである三重県や、隣接する愛知県は日本有数の産業集積地でもあり、このような豊かな営業基盤も欠かせない強みであると思います。

課題としては、今後ますます社会の変化が激しくなるなかであって、行員一人ひとりが、現状に安住することなく、変革思考とスピード感を持って業務に取り組んでいくことが、今以上に必要であると感じています。

### Q 今後、百五銀行が持続的に成長するために力を注ぐべきことは何でしょうか？

当行が中長期的に成長していくためには、当然のことですが、地域社会が持続的に発展することが必要です。地方銀行を取り巻く経営環境が厳しさを増すなか、地方銀行として「地域のためにできることは何か」を真剣に考え、お客さまのニーズに合った商品やサービス、ソリューションを、スピード感を持って提供していくことが重要です。

店頭にお越しいただくお客さまが減少するなか、スマホバンキングなどによりお客さまの利便性を確保したうえで、店舗の統合による効率化を進めることは必要です。一方で、事業承継支援、相続相談など、コンサルティング業務においては、フェイス・トゥ・フェイスのつながりは欠かせません。

当行が中期経営計画で掲げる「デジタル&コンサルティングバンク」を実践し、お客さまから真に頼りにされる銀行であり続けることこそが、持続的な成長に必要なことであると考えます。